

【以下余白】

2009 年度

刑 事 法 問 題 用 紙

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

次の事例を読み、下記の間1・2に答えよ。解答は、問1は紺色の解答用紙（その1）に、問2は茶色の解答用紙（その2）に、それぞれしるせ。

〔事例〕

Xは、多額の収益を上げている風俗店グループ甲のナンバー2であり、甲の実質的経営者で収益の大半を受け取っているAの右腕として働いていたが、Aが、思うように仕事を任せてくれないうえ、Xを甲の後継者にする気はないと言っていたという噂を耳にして、Aに対する憤懣を募らせ、Aを殺害してAの隠し資金を奪い、自らグループ甲の二代目になろうとの気持ちを固めていった。Xは、A殺害の機会をうかがううち、Aの愛人のB女宅にAが宿泊する際に実行するのがよいと考えつき、B女及びその友人Cを仲間に引き入れた。その後、Xは、B女からAが10月1日夜にB女宅に泊まると聞かされ、当日Cと共にB女宅で待っていた。当日、午後8時ころ、AがB女と帰宅したので、Aが一人になった際に、XとCがAに襲いかかり、包丁で前胸部を複数回刺してAを殺害した。Xは、疑われないように偽装工作をしてから一人暮らしのA宅に向かおうと考えていたが、無関係の者の物取りの犯行に偽装するのに時間がかかったので、やむなく、10月2日午前7時ころ、直属の部下であるYに携帯電話で連絡を取り、これまでの事情を話したうえ、A宅の金庫にある隠し資金を持ってくるように命令した。Yは、これに従い、A宅に侵入して、隠し資金を発見し、Xのところに届けた。その後、B女の通報により、B女宅でAが何者かに殺害されて発見された事実が警察から公表され報道された。これを受けてXとグループ甲の有力者Dとの間で緊急の打ち合わせがなされ、Xがグループ甲の代表者になることで合意した。引き続き、Xは、幹部従業員の会合でその旨の方針を示したが、特段の異論も出なかったため、XがAの後継者として、グループ甲の経営上の権益を掌握した。

- 1 (1) 警察官は、B宅について、搜索・差押え、検証を行い、A宅については、Aの遺族など（管理権者）の協力・了解が得られたので、実況見分を行った。それぞれの処分の根拠条文を示せ。
- (2) (1)の実況見分の結果を記載した書類の証拠能力について説明せよ。
- (3) (1)の検証の際に、Bを立ち会わせて、Aの死体を発見した位置について指示させ、その指示を検証調書に記載していた場合、その指示の部分の証拠能力はどうか。

(4) 検証や実況見分の結果をビデオ録画していた場合、そのビデオテープの証拠能力はどうか。

- 2 X及びYの罪責について論ぜよ（特別法違反の点は除く）。